

中野区教育委員会会議録

平成27年第5回臨時会

平成27年7月24日

中野区教育委員会

平成27年第5回中野区教育委員会臨時会

○日時

平成27年7月24日（金曜日）

開会 午後7時00分

閉会 午後8時16分

○場所

中野区役所5階 教育委員会室

○出席委員

教育委員会教育長 田辺 裕子

教育委員会委員 渡邊 仁

教育委員会委員 田中 英一

教育委員会委員 小林 福太郎

○欠席委員

教育委員会委員 増田 明美

○出席職員

教育委員会事務局次長 奈良 浩二

教育委員会事務局副参事（子ども教育経営担当） 辻本 将紀

教育委員会事務局副参事（学校教育担当） 石濱 良行

教育委員会事務局指導室長 杉山 勇

○書記

教育委員会事務局教育委員会担当係長 金子 宏忠

教育委員会事務局教育委員会担当 高橋 綾菜

○会議録署名委員

教育委員会教育長 田辺 裕子

教育委員会委員 田中 英一

○傍聴者数

0人

○議題

1 協議事項

(1) 平成28年度使用教科用図書の採択について

○議事経過

午後 7 時 0 0 分開会

田辺教育長

それでは、ただいまから教育委員会第 5 回臨時会を開会いたします。

本日の会議は定足数に達しております。

本日の会議録署名委員は、田中委員にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりです。

ここでお諮りいたします。本日の協議事項、平成 28 年度使用教科用図書の採択については、公正を確保するため、採択過程にあつては、中野区立学校教科用図書の採択に関する規則第 10 条第 1 項に基づき非公開と定めておりますので、本日の教育委員会の会議についても地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 7 項ただし書により非公開としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

田辺教育長

ご異議ございませんので、非公開とすることに決定しました。

(以下、非公開)

(平成 27 年第 22 回定例会における会議録の公開決定に基づき、以下非公開部分を公開)

<協議事項>

田辺教育長

それでは日程に入ります。

前回に引き続き、「平成 28 年度使用教科用図書の採択について」の協議を行います。協議の進行につきましては、前回と同様の方法によりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、地図について協議を行います。各委員から順にご意見を伺いたいと思います。まず、小林委員、お願いいたします。

小林委員

地図は帝国書院と東京書籍の 2 者が出ているわけですが、この両者については、調査研究の資料を見ますと、それぞれの掲載されている資料数については若干帝国書院の数が多くなっております。しかしながら、地球儀の取扱いの箇所は東京書籍にあつて帝国書院にないというようなところで、この辺りの資料の内容、数及び全体の体裁については

甲乙つけがたい状況なのかもしれません。

実際に中を見ていきますと、どちらかという色彩というか、色調というか、非常にはっきりとしているのが帝国書院で、逆に少し全体的に薄い感じがするというのでしょうか、淡い感じのする色調の東京書籍ということで、これについては本区の調査研究の中でも帝国書院は色合いが明るい。一方で、東京書籍は落ちついた色調であるというような報告があります。

この両方はそれぞれ指導する側にとっては一長一短というところがあると思うのですが、私自身の考え方は、地図離れとか、やはり地図を見るのが苦手な子どもが多いということを考えますと、例えば見たところに印をつけるとか、そういった作業があるかと思えます。最近ではマーカーなども非常にたくさんありますので、色調がはっきりしているといいという部分もあるのですけれども、むしろ私は淡い色調のものの方が学習するのに適しているのではないかなと感じております。したがって、その他様々細かいところはございますけれども、総合的にいろいろ判断して、両方甲乙つけがたい部分もありますけれども、順序としては、私は東京書籍のほうを上位に置いて話を進めさせていただきたいと思っております。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

続きまして、渡邊委員、お願いいたします。

渡邊委員

今、小林委員が言われたように、帝国書院と東京書籍を見ますと、色の使い方は一緒なのですけれども色調が違う。そういう意味で、帝国書院を開いたときに、非常に見なれた感じと安心感はあるというふうな感じは受けました。同じような地域を見ますと、縮尺もほぼ一緒という感じですが、ただ、色調において、やや薄いほうが文字が見やすいと。小林委員も言われたように、地図に印をつけたり、何かを書き込むという場合には、かえってわかりやすくなるというようなイメージは、私も同感に持ちました。

地図の内容だけではやはり甲乙つけがたいところがあって、そのほかにも何かあるのかと見ていくと、領土の問題で、両者とも同じように領土のことが書いてあるのですが、東京書籍は見開きで大きく書いてある。こういう辺りが重要なことでもあるのではないかなと感じました。

それ以外には、東京書籍だと 141 ページ、帝国書院ですと 148 ページに、人工衛星から見た写真が出ているのですけれども、日本を中心にした写真と、世界全体の写真。これについてはやはり世界全体を写した東京書籍の写真のほうがよろしいかと思います。

そういったところで、東京書籍のほうが随所に見やすい工夫がされていると感じました。
以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

田中委員、いかがでしょうか。

田中委員

私も地図は東京書籍がいいなと思いました。一つは、1 ページの目次が、東京書籍は横に世界全体とか、アジアという分類があるのは、これは生徒が見て探すときに非常にわかりやすいのかなと思いました。

それから、例えば 37 ページのヨーロッパの鳥瞰^{かん}図で、これは陸ではなくて海底の地図というのですか。海の深さがわかる。これは斬新で生徒たちが興味を持つ資料なのかなと。これはいろいろなところで出ているので、これも一ついいなと思いました。

それから、地図の一番の基本なのですけれども、見やすさから言ったときに、例えば、瀬戸内海の地図を東京書籍だと 83 ページなのですが、それと全く同じものが帝国書院だと 87 ページにあって、これは全く同じ縮尺で出ているのですけれども、こうやって比べてみると、字が見やすいのはやっぱり東京書籍のほうが見やすいので、地図の一番の基本の生徒たちが見てわかりやすいという意味では東京書籍がいいかなと思いました。

帝国書院では、31 ページの「東アジアから見た日本」という地図があって、中国のほうから日本列島を見るとどうなのかというのを表していて、その部分は良いと思いました。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

最後に私からも意見を申し上げます。帝国書院と東京書籍、どちらも甲乙つけがたいと思います。帝国書院はやはり地図で実績があるということで、本当に様々工夫が凝らされているということもありますし、データ等も丁寧に作られているのですけれども、今の子どもたち、日本の子どもたちのことを考えてみると、国土だけでなく、日本は海に囲まれていますし、海の中の状況というのも子どもたちに理解してもらいたいなと思いますと、

皆さんから意見が出ているように、海の深さを表したり、それから海流がとても丁寧に書かれていて、今エルニーニョ現象ですとか、いろいろ気象でも日本の状況で変動があるという中では、そうした海流の動きなども解説が細かいのは、東京書籍であると思いました。それから、高低差がとても丁寧に書いてあって、海のほうも丁寧に書いてあります。先ほど田中委員がおっしゃった 37 ページのヨーロッパの鳥瞰^{かん}図ですとか、渡邊委員からご指摘がありました、日本の国土を表す図などで見ると、3Dを思い浮かべさせるような立体的な表現になっていますので、今の子どもたちにとって入りやすい地図ではないかなと思いました。

ただ、田中委員がおっしゃったように、私も 31 ページの、中国のほうから見た東アジアと日本というのはなかなか工夫があって、この辺はやはり帝国書院も優れたものを持っているなと思いましたが、全体を通して中野の子どもたちの現状を見ると、東京書籍を推したいなと思っています。

以上です。

皆さんの意見を伺いますと、全員、東京書籍ということですので、地図については東京書籍を採択候補にしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

田辺教育長

ご異議ございませんので、地図については東京書籍を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは、次に数学についての協議を行います。

各委員から順にご意見を伺いたいと思います。まず、渡邊委員、お願いいたします。

渡邊委員

数学は7者の中からということで、その中で、やはり基礎を十二分に固める、重要事項がはっきりしている、それで学びやすい教科書ということと、算数の振り返りという点について一つずつ確認していたのですけれども、算数から数学に変わるということで、その点が目次に示されているのが4者あったわけですけれども、その中でも東京書籍、大日本図書、学校図書が丁寧に示されて、そして巻末にも算数の問題も取り入れるなど、工夫されているのがこの3者でした。

振り返りに関して、いろいろと勉強していったところで「ふりかえり」というような形で示されているのが東京書籍で、ちょっと確認というような形で示されていたりして、と

てもいい。そしてまた、ホップ、ステップ、ジャンプというように、習熟度に合わせて、順番に問題を並べていくというのに当たっても非常に望ましいのではないかなと思われま
す。そういう意味では、習熟度別の問題が示されているのは東京書籍と学校図書でありま
した。

その中で非常に解説が丁寧で、基本についてかなり重点を置いているのが東京書籍で、
中野区の子どもたちには望ましいと考えました。

田辺教育長

ありがとうございます。

次、田中委員、お願いいたします。

田中委員

私も数学については、中野では習熟度別のクラスで教えているということで、単元末の
問題が習熟度別になっているところがまず中野にはいいかなということで、そういう意味
でいくと、東京書籍と学校図書が中野の子どもたちにはまず合っているのかなと感じまし
た。

学校図書のほうは、振り返りのページがわかりやすい。例えば 123 ページに、これまで
学習したことが単元でまとまって出ていて、それが、子どもたちが最後に、一つの単元が
終わったときに整理するのに役立つかなと思います。

それから、レポート作成とか発表の仕方、あるいは調べ方などが 258 ページの「さらな
る数学へ」というところで、「表現する力を身につけよう」というところで、これは学校図
書がかなり充実していた分野で、この部分がいいかなと思います。ただ、全体的な見やす
さ、ページを開いたときの見やすさは東京書籍のほうが見やすく勉強しやすいのかなと
感じました。

それから、導入の問題が、東京書籍のほうは非常に具体的な問題でわかりやすかったで
す。例えば反比例のところだと、東京書籍が 124 ページで、「さくらさんは、プラネタリウ
ムをみるために」と、非常に具体的な問題なのですけれども、一方、学校図書は同じ反比
例のところは、141 ページですけれども、面積 6 平方センチメートルの長方形の縦と横の
長さの関係を調べてみましょうという問題で、単元に入っていくときに、導入に随分差が
あるかなと感じました。学校図書と東京書籍を両方推したいと思いますが、どちらかとい
うと東京書籍のほう少し学びやすいかなという気がしました。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

それでは、小林委員、お願いいたします。

小林委員

私はこの中で大日本図書の教科書について、一番中野にはふさわしいのかなと思いました。まず客観的な数字のデータなのですけれども、取り上げられている問題の数というのは圧倒的に大日本図書が多いということなのですね。数学の場合には、ドリルとか、ほかの教材も使うのかもしれませんが、やはり教科書の中でしっかりとそういった数というか問題をこなしていくというのは、学力をつける上で非常に重要ではないかなと思います。数学には四つの領域、数と式、図形、関数、それから資料の活用というのがありますが、そのページ数において、一番ではありませんけれども、2番目に位置しているということです。私が大日本図書に注目しているのは、これはどちらかという従来 of 古典的な教科書なのかもしれません。数学的活動を取り上げている箇所という点では、残念ながら数は少ないのです。しかしながら、私はこの教科書で一番大きなポイントと思ったのは、この中に幾つか「社会にリンク」というページがあります。例えば、今、メジャーリーグで活躍している田中投手の配球だとか、鉄道のダイヤの組み方、又はソフトウェアの開発者とか、数学の研究者とか、1ページを割いて、要するに数学を学んでいく延長上にはこういった仕事だとか活躍する場面があるのだよということを随所に入れていたというのは、ちょっとほかの教科書にはない大きな特色で、基礎学力をしっかりと身に付けるとともに、数学好きになる、又は数学を伸ばしていくという視点で非常に優れた内容になっていると私は判断しました。

啓林館もよろしいかと思いましたが、やはりその「社会にリンク」だとか、それから、後ろのほうにマスフルという特集のページがあって、工夫がされているということで、大日本図書が中野にとっては一番ふさわしいのかなというような思いを持っております。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

最後に私の意見を申し上げます。本日、小学校長会との意見交換会を行いましたけれども、その中で、生徒たちにとって算数と数学は違うもので、かなり違う教え方とか学習方法になっているのではないかなと話を伺って思いました。そういう意味では、1年生の導

入というのはとても大事なのではないかなと思いました。それからまた、中野区学力にかかわる調査の結果なのですけれども、これも学年を追うごとに調査結果が下降傾向にあるということで、基礎基本の定着とか、日常生活に結びつける場面の設定ですとか、学習後の活用を支えられる教科書がいいのではないかなと思いました。そういう意味では、東京書籍と学校図書と大日本図書がそれにふさわしい教科書ではないかなと思ったのですけれども、大日本図書のほうが、導入が多少淡泊かなという思いは持っています。それ以外に、東京書籍と学校図書では振り返りのページや確認しながら学習するような工夫がされていて、学習内容の定着を図る問題が非常に多いのではないかなと思っています。

その2者で比べますと、東京書籍のほうが絵や図や写真など多用されていて、親しみが持てるということと、小学校で学んだことを確認できる工夫がさまざまされていて、東京書籍が中野区の子どもにとってはいいのではないかなということを思いました。

ほかにご意見ございますか。

渡邊委員

今、小林委員からご意見いただいて、私自身も東京書籍、大日本図書、学校図書を挙げたのですけれども、例えば中学校に入ってきて最初に学ぶものというのは、算数と一番違うのは方程式だと思うのですけれども、その方程式のページを見ていただくと、東京書籍だと82ページ、学校図書だと92ページ、大日本図書だと96ページに方程式の入り方があります。大日本図書はいきなり文字から入ってくるのに対して、東京書籍の導入の仕方は非常に丁寧です。そして、教科書に書き込んでいく形をとっています。また、先ほど言ったように、「ちょっと確認」、「たしかめ」とか、振り返るところでも親切的な丁寧さがあるのかなと。

それから、最後に付録がついているのですよ。多面体を考えるというのは一番難しい作業なのです。空間を考える。それをやはりこういった形でものを作って少し考える。中学生にはいかがかなと思ったのですけれども、ここまで親切であるのも悪くないなど。そういう意味で、東京書籍はよく、基礎からということ十分に踏まえたわかりやすい教科書になっています。確かに数学が得意な子にとっては大日本図書は非常に問題の数も多くて、どんどん取り組んでいけそうな形にはなっているだろうと思います。しかし、主な問題は習熟度別になっていないという点が、やはり数学がちょっと得意でない子にとっては使いづらいのではないかなと思ひまして、そういう点ではやはり東京書籍のほうがいいかなと感じております。

田辺教育長

渡邊委員、ありがとうございました。今までのご意見を総合しますと、それぞれの教科書に長所はあるのですけれども、中野区では東京書籍の教科書がふさわしいのではないかというご意見が多数かと思いますが、数学については東京書籍を採択候補とすることでご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

田辺教育長

ご異議ございませんので、数学については東京書籍を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは、理科について次に協議を行いたいと思います。

まず、田中委員からお願いします。

田中委員

理科は5者の中からの選択になりましたけれども、私は東京書籍が学びやすいかなと思います。それと、学びやすさと合わせて、理科から科学というふうな世界の中で、生徒が科学に興味を持てる、そういう全体の構成になっているのかなと感じました。表紙をめくったところの「見えない物を見る科学の力」ということで、科学がなぜ必要か、科学を理解するということができるのだというところへ最初の焦点を当てているところもいいなと思いました。それから、それと類似のことなのですけれども、目次が、例えば1番のところは、東京書籍は「植物の世界」という単元になっています。ほかの教科書では、例えば「植物の生活と種類」とか、何か非常に学問的な単元名になるのですけれども、この中で東京書籍は、そういう意味では生徒たちが興味を持って学べそうな切り口なのかなと思いました。

それから、理科には実験が多いのですけれども、その実験の安全に対する配慮が、8ページと9ページの「理科室の決まり」ということで、地震が起きたときの対応まで非常にわかりやすくイラストで描かれていて、これが非常に重要なことではないかなと思いました。それから、水に溶けるまでという実験については、実験のやり方がイラストだけではなくて、実際の器具を使って生徒たちにわかりやすく表現されている。これは理科にとっては大事な要素かなと思いました。そういったところから、私はこの東京書籍が中野にはいいかなと感じました。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

続いて、小林委員、お願いします。

小林委員

私は大日本図書について一番目に挙げたいと思います。その主な理由は、実験について一番数多く箇所を取り上げているのは大日本図書であります。やはり理科の場合には、いわゆる講義形式も大事なのですが、実験をいかに興味深く進めていくかということは大きなポイントだと思いますので、この点は大いに評価できる部分かと思えます。

内容的に見ると、第1分野、第2分野とも満遍なく数多く取り上げられているという点で非常にスタンダードというか、学力をつける上でも非常に優れているかなと思います。もしこれに対抗するとなると、例えば啓林館が、非常にそういう点では実験なども重視していますし、取り上げられている箇所も、第1分野、第2分野ともかなり多いのですが、啓林館の場合には、後ろに「マイノート」というのがついていて、全体的なボリュームがあり過ぎるように思います。ですから、調査研究の報告でも、大日本図書は巻末の資料が非常に豊富でというのですが、改めて見ますと、実験の仕方とか、子どもが興味関心を高めるような実験に関する説明やまとめが非常に優れているというようなことで、全体的に非常に丁寧につくられているということで、大日本図書を第一に挙げたいと思います。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

続きまして、渡邊委員、お願いします。

渡邊委員

学習する課程の順番に構成されている東京書籍、大日本図書が、やはり授業を進めていく上、また、自分たちが勉強していく上にも、使いやすいのだろうなと感じます。そういった点では、東京書籍と大日本図書が、やはりいいなと感じました。

そして、その中で安全に対する配慮というところでは、大日本図書のほうがその配慮がきめ細かいなという点が感じられました。保護めがねの扱いまでも書かれているなど、そういったことがしっかりと示されている点などは評価できると思います。

そして、人体のところを見ますと、東京書籍は少し凝り過ぎというような感じがあります。血液とか、リアリティーを持った絵にしているのですけれども、それよりは、もう少し

しわかりやすく示されているほうが授業としてはやりやすいのではないかなと感じております。

そして、天体について、3年生の地球と宇宙の導入のところの入り口で書かれているのですけれども、大日本図書のほうは最初に日本の誇るすばるが出ているのですね。天体の学習を始めるときに学校の先生がすばるの話をする、やはりすごく天体に対する興味がわくのではないかと思います。東京書籍は宇宙飛行士が宇宙空間に浮いている写真なのですけれども、その点がちょっと違うかなと。そして、ではすばるについての記載はというと、東京書籍だと222ページで「天文学を支える日本の技術」という形で出ていて、そこに、すばるが一番上に載っているのですけれども、大日本図書の197ページのすばると比べたときに、赤い線が入っていないのですよ。この赤い線が入っているというのが実に重要でして、これも日本の技術で、レーザー光線を立てて、レーザーポインターのように星を指さして見られるという技術を開発した。こういったところからも、若干導入というか、話をつくっていきけるようなところが感じ受けられました。

東京書籍の222ページにはTMTという新しい世界一の望遠鏡の写真が下に出ているのですけれども、大日本図書の232ページにも紹介されていて、こういったところからも天体に対する興味がわきやすくなるのかなと。そういった意味では、いろいろな図示をお互いにやっているのですけれども、大日本図書のほうがより細かい技を使っているのではないかなというところで、大日本図書を私は挙げたいと思っております。

田辺教育長

ありがとうございます。

最後に私から意見を申し上げたいと思います。皆さん方ほとんどの方が東京書籍と大日本図書ということで、私も導入とか教科書の使い方の説明が丁寧で、中学校1年生の最初の学習がスムーズに流れていくのではないかなと思いましたが、同じく東京書籍と大日本図書を挙げたいと思っています。両者とも絵や図や写真など、資料が豊富で、器具の扱い方の説明も懇切丁寧な説明がありました。また、話し合いや「考察しよう」というようなアクティブラーニングを意識した、そうした構成にもなっていると思いましたが。選定調査委員会の委員長からの報告も受けましたけれども、そのときには、安全への配慮があったほうがいいのか、暮らしの日常体験を重視した教科書であってほしいというような指摘もありまして、そういう意味から言いますと、大日本図書のほうは科学実験を安全に行うためにというページだけでなく、いろいろな器具の取り扱いのところに、注意という黄

色い表示があって、その都度器具を取り扱うときの注意が出されていて、本当に安全に配慮しているなと思いました。また、日常体験のほうでは、暮らしの中の理科ですとか、トピックという中に興味関心が持てるような構成がありまして、私としては大日本図書を推したいなと思いました。

皆さんからご意見いただきましたけれども、全体を通して大日本図書を中野区としてはこのご意見が多数でしたので、理科については大日本書籍を採択候補としたいと思いますがご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

田辺教育長

ご異議ございませんので、理科については大日本図書を採択候補とすることに決定しました。

それでは、次に音楽一般について協議をしたいと思います。

各委員から順にご意見を伺います。まず、小林委員、お願いいたします。

小林委員

音楽は2者ですが、それぞれ方向性というか、やはり生徒にとってどうか、教師にとってどうかという視点が見えるような気がいたしました。現行は教育芸術社で、教えやすいという部分があり、恐らく現場からの支持も高いと思うのですが、私は教科書という視点から見ると、教育出版の内容が非常に捨てがたいものであると思います。取り上げられているアーティストとか、紙面構成とか、その他いろいろな扱いに関して教科書として格調が高い感じがいたします。音楽という教科を考えた場合、ただその教室の中で歌うとか演奏するだけではなくて、様々な場面で触れるわけですので、可能性を広げられるような教科書を中野の子どもたちに届けたい。そういう視点からすると、やはり教育出版のものが勝っていると思います。本としても、見るととじ方も違いますし、見開きのページがあって、非常に見やすくなっているというようなこともありますので、私としては、音楽については教育出版をまず第一候補に挙げたいというふうに考えております。

田辺教育長

ありがとうございました。

渡邊委員、お願いいたします。

渡邊委員

私は、教育出版がよろしいと思います。音楽の教科書ということで見ますと、まず、楽

譜が出て、絵が描いてあるというところに、写真をもって美しい本の仕上げ、芸術というようなところでもあるのですね。どのページにも美しさとか写真とか、そういったような形で工夫がされている。やはりそういったところに違いが出ているように思います。

そして、どの教科書にも『君が代』が一番最後のページに出されています。ただ『君が代』が載せられている教育芸術社に対して、教育出版は、いろいろと写真とか、『君が代』が流れるような雰囲気というものも示している。これが、2年生、3年生のときにも出ているわけですが、教育出版は毎回違うような形で『君が代』を示していて、それで『君が代』の意味を一つ一つ、懇切丁寧に書かれている。前のページは、教育出版は『ふるさと』が出ています。ふるさとの情景を思い浮かべるといふか、見開きの状態になって出ている。こういったところも美しさとか、いろいろと思いが込められているとか、そういうようなところをやはり強く感じます。

同じ曲を取り扱ったところで言わせていただきますと、教育芸術社であれば2・3年の上の21ページ。そして、教育出版では2・3下の15ページに『荒城の月』が出ています。ここに出ている写真なのですが、これが滝廉太郎ゆかりの城址になっているところなので、すけれども、『荒城の月』をつくった滝廉太郎と土井晩翠の、それぞれが何を思っにつくったかというような示し方が出ている、そして月まで写っている。荒城の月という、これを思い浮かべた、本当に細かく丁寧に情景を描いたり、説明が書かれているという点につきましては、教育出版のほうがしっかりと教科書を作っているなと感じてならないものですから、ぜひこういった意味では、中野区の子どもたちには教育出版の教科書を使って学んでいただきたいなと感じました。

田辺教育長

ありがとうございます。

次に田中委員、お願いします。

田中委員

私は教育芸術社を推したいなと思っています。というのは、音楽なども確かにいいものに触れるということはすごく大事なのですけれども、触れるときにやはり基礎的な知識とか、どこを感じるかというのをわかったほうが、子どもたちが最初にそういうものを理解しやすいのかなという気持ちが私自身はあるので、中学の学びとして少し音楽を解説する部分も必要なのかなと思います。それが教育芸術社では、最初のほうにある音楽学習マップですね。ここでそれぞれの課題曲の中でこういった部分を学ぼうということが明確に出

ていて、これが非常に生徒たちにとっては学びやすいのではないかなと思いました。

それから、これは教育出版も出ているのですけれども、課題曲の一番上に、例えば浜辺の歌で情景を思い浮かべながら表情豊かに歌おうという、課題が非常にわかりやすく大きく出ているのも同じ意味で使いやすいのかなと思いました。

ただ、先ほど渡邊委員がおっしゃっていた『君が代』については、1ページの扱いですね。教育出版が見開きで、更に学年が上がる時にもまた違った絵を入れたりとか、非常に国歌に対する思いが出ていたので、その点は教育出版のほうがいいなと感じましたけれども、学びという点で私は教育芸術社を推したいなと思いました。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

それでは、私からもご意見を申し上げたいと思います。音楽は子どもたちが生涯、音楽を友達として感じるように過ごしてもらいたいと思いますし、音楽を楽しめる人になってもらいたいと思います。また、教養として音楽や音楽を通じた様々な世界を広げていくということも非常に大事ですので、やはり子どもたちが学びやすいということを視点に考えてみました。そうしますと、教育出版のほうの写真を多用したり、情感を込められるような背景の解説があったりということで、充実しているのではないかなと思いました。それから、曲の解説だけでなく、「伝えてみよう」とか「まとめてみよう」というような書き込みをするところがあったり、自分の考えをまとめるような提案があったりということで、音楽を聞きながら表現活動とか言語活動なども学んでいけるような工夫もされていて、教育出版の教科書のほうが、私としては中野の子どもたちに使ってもらいたい教科書だと思いました。

以上です。

皆さんの意見を伺いまして、全体として教育出版という意見が多数ですので、音楽一般については教育出版を採択候補としたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

田辺教育長

ご異議ございませんので、音楽一般については教育出版を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは、次に音楽器楽について協議を行いたいと思います。

まず、渡邊委員、お願いします。

渡邊委員

器楽につきましては、私としては甲乙つけがたいと感じております。音楽一般の教科書のときには、活躍している日本のアーティストを紹介しているところなどは教育出版が良かったのですね。器楽のほうには、両方とも、人こそ違うのですけれども同じような形でアーティストの紹介から入っている。そして、少し楽器の紹介とかもあるのですけれども、目次の見やすさについてはなれの見やすさではないかなと。笛の吹き方について、姿勢、持ち方とそういった意味でも、この辺りもう非常にどれをとっても甲乙つけがたい内容です。

琴を中野区では必ずやるというようなことを伺いまして、琴について、どのように書いているかということ、琴については教育芸術社のほうが若干細かく書かれているのかなと。ほかの楽器においてもそんなに差がないので非常に迷うところなのですけれども、音楽一般の教科書とのつながりとか、使いやすさから考えると、教育出版を選んだほうがいいのではないかというふうに感じているところです。

田辺教育長

ありがとうございます。

田中委員、お願いいたします。

田中委員

私は音楽一般と同じく、やはり教育芸術社を推したいと思いました。一つは、今、渡邊委員もおっしゃいましたけれども、中野はお琴が各中学に配置されていて、それを授業に使っているということで、お琴についての図示が非常に、上から見た姿勢というのですか。位置の写真があったりしてわかりやすいのかなと思います。そんなに多くの時間を割いて教えるわけではないと思いますので、こういうものは中野の現場では使いやすいのかなと思いました。

それから、教育芸術社のほうが打楽器などが多くて、アンサンブルをやりやすいというような現場の声があるということをお聞きしましたけれども、アンサンブルというのは結構大きな人数で、音楽の大きな楽しみの一つだと思いますし、中学校で、集団で一つの曲にチャレンジするというのも、教育的効果も高いと思うので、そういった点で教育芸術社のほうが使いやすいのかなと感じました。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

小林委員、お願いいたします。

小林委員

この両者比べてそれぞれ特性があると思いますけれども、総合的に見ると、教育出版が勝っているというふうに判断をいたします。その一つとして、教育出版の表紙から1枚めくると、コンピューターによる音源制作というのが入っているのですが、コンピューターによる音楽とのジョイントというのは、子どもたちが興味を持つところであって、新しいジャンルでこういうふうにしつかりと発展学習で取り上げているところに、編集の意欲を感じます。やはりどちらかという教育芸術社は今までのものを大事にしている一方で、教育出版は新しい音楽指導をとという流れがあるかなと思います。確かにお琴の部分はご指摘のとおりページ数は多いのですが、私は中の扱いは『さくらさくら』が非常にメインで大きく取り上げられて、実際に指導するときには、教育出版の紙面構成のほうが優れているのかなと思いました。

あとは、折り込みのページで横笛の使い方といいますか、そういうものを有効に使っているとか、選定調査委員会の報告でも教育出版が中野区の実情にとっていろいろ応用しやすい教科書であるという報告もありますので、総合的に言うと教育出版のほうで進めることがよりよい選択かなと判断をいたしました。

以上です。

田辺教育長

ありがとうございます。

それでは、私からもご意見を申し上げます。私も教育出版のほう子どもたちにとって使いやすいかなと思いました。お琴のところが話題になっていて、中野区では琴を指導しているわけですが、曲が教育芸術社のほうは『虫づくし』と『姫松』、『さくらさくら』が紹介されています。教育出版のほうは『さくらさくら』と『荒城の月』と、それから『もののけ姫』が紹介されているのです。琴というのは古典的な楽器ですが、琴の曲自体は『姫松』とか『虫づくし』もあるのでしょうけれども、今の子どもたちがなれ親しみやすいというのは『さくらさくら』、『荒城の月』、『もののけ姫』ということで、『もののけ姫』など、現代の曲も琴で弾けるのだということ子どもたちにもわかってもらいたいと思いますし、この教科書を見ながらお琴を弾くとなると、楽譜は教育出版の教科書

のほうが大きいですし、今は五線譜の楽譜を見ながらお琴を弾くこともあることを考えると、教育出版のほうが五線譜の曲が大きく表現されていますので、琴についての指導も教育出版のほうがしやすいのではないかなと思ひまして、教育出版を推薦したいと思ひます。

各委員からご意見を伺ひまして、教育出版という声が多数であったと思ひますが、音楽器楽については教育出版を採択候補とすることで、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

田辺教育長

ご異議ございませんので、音楽器楽については教育出版を採択候補とすることに決定いたしました。

それでは、本日の協議はこれまでとしたいと思ひます。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。これをもちまして教育委員会第5回臨時会を閉じます。

午後8時16分閉会